提　　言

子どもへの虐待のない社会へ

福永慶隆（日本医科大学小児科）

子どもへの虐待に関するニュースが，テレビや新聞などで多く報道されています。子どもへの虐待の相談・報告の件数は増加の一途を辿っており，虐待が死亡へと繋がるなど深刻度を増しています。虐待被害を受ける子どもたちを病院で早期発見して適切な対応が出来るように，病院向けの対応マニュアルが作成されています。そして，小児救急を担う病院が虐待発見の最前線になっています。

しかし，家族や近所の住民が子どもへの虐待を発見する場合が病院よりも多いという現実があります。このように，子どもへの虐待対応には，保護者をはじめ同居している家族，近隣の人びと，保育所，幼稚園，学校などによる早期発見も重要で不可欠です。

しかし，これからは，子どもへの虐待を防ぐことがより重要だと思います。虐待につながる要因は，家庭の状況に加えて，保護者の心身状況など多くの要因が絡み合って起き，虐待する親たちの背景には，子育ての悩み，周囲からの孤立，家族の不和，経済的な問題などのストレスや葛藤があるといわれています。

現在では，家と家との行き来が少なくなり，さらに，近所の子ども同士が一緒に遊ぶことも少なくなり，人びとの交流は貧困になってきています。男女共同参画社会，子育て支援がさらに受け入れられて，子育てに父親が加わり，さらに親や家庭以外の場において，いろいろな人びととの交流を通じて子育てを行うことも必要だと思います。

子どもへの虐待を予防するには，年齢の異なる子どもが一緒に遊び，近所のおじさんやおばさんに誉めてもらったり叱られたり，近所の人びとや社会にも見守られ育てられるような，「みんなで子育て・地域で子育て」をする社会を構築することが必要なのではないでしょうか。

交通公園―交通ルールやマナーを学ぼう―

Presented by Medical*Online